



朝香樓芳春画

篠田仙果作

二編下



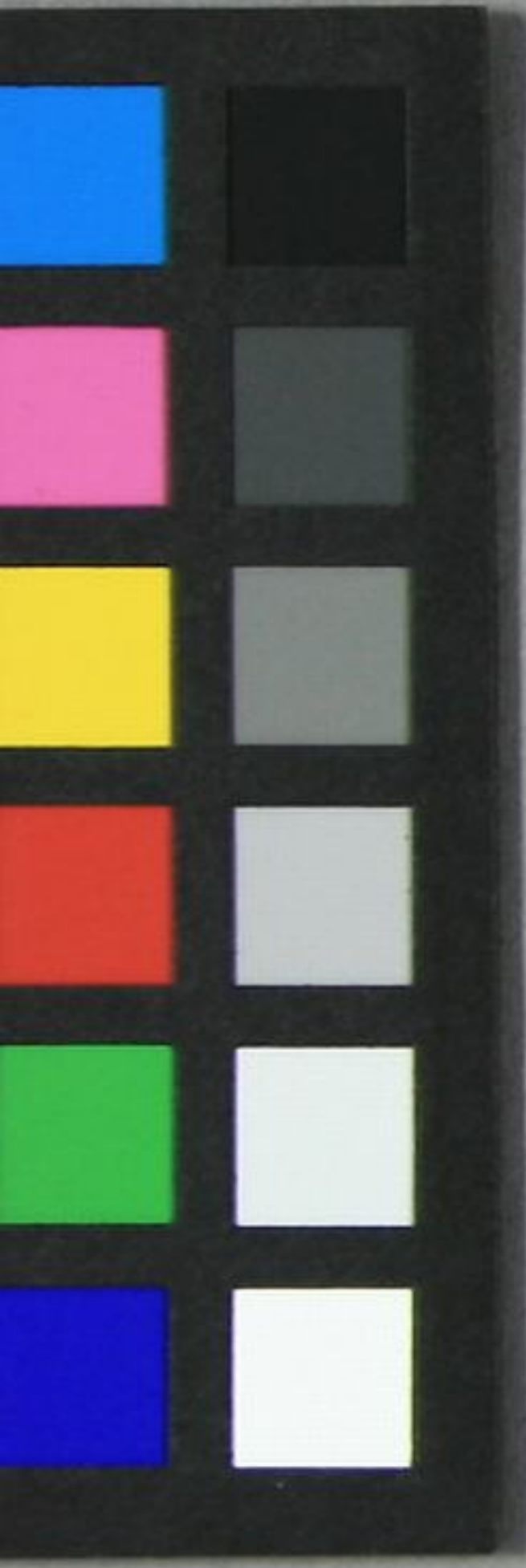
二編中



雪月花三遊新話

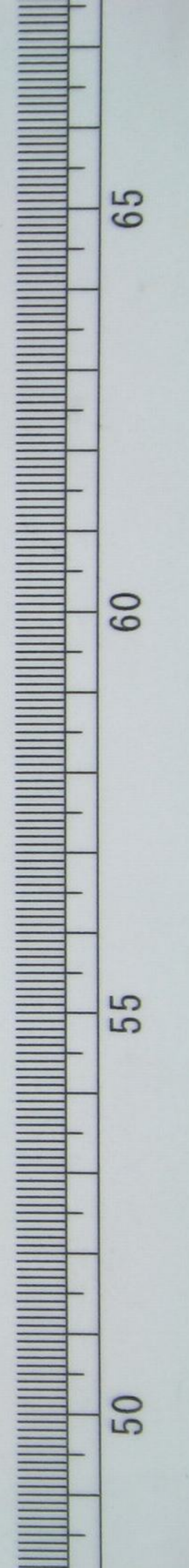
二編上





雪月花二遊新話  
せつげつくわにぎゆうしんわ

二編上





A 482  
4

雪

仙果  
著

山松堂

青梓

芳華畫

月花

三遊

新話

二輯上



雪月花三遊新話 二編

東京名産トウキョウメイサンは美ウツクへられど、雪ゆき顔かほをうける物の中と雪月花ゆきづきづかの比例ひしひをい  
 畫え工こうのほ詰つめ極ごくまで宜よろ親おや客きやくの目めと慰なぐさまの茶ちや勢せい紙し面めんの深ふか漫まんらう諸しよ梓さい  
 元もとハ六むツの花はな庫くら中ちゆうは積つみり狼ろう以もて美うみ勢せいを重おもねる製せい本ほん刻く字じ匠じゆう次じは月つきの  
 記者きしやみれど小ちひ生なま猫ねこの書かきも文ぶんの暗くらさよ和わぬ掃はきり書かき今いま般ぱんも三さんツの眺ながめ望ぼうよ  
 あらぬ隅ぐも四よ川がはの迎むかへ住すま山やま松しょう堂どうの需もとめは燈とうとて二に夜やの折せ筆ひつをてむせど  
 死しと夢ゆめがらちされ共とも初はつ編へんの判はん判はんの徹てつ夜やあつて此こゝ草くさ紙しよるくあは  
 と愛あいかたしあをる障せうりの無な肉にくゆと弟あに二に号ごうを繕つくろひじ唯ただ簡かん乃の夜よの  
 殊こと絶ぜつ絶ぜつとまふれあつてをたかめよあん

笠亭主人  
 篠田仙果漫記

三遊二上

48-8145





旧金家の医者  
真尊周元

相州西浦智新地町  
江戸屋半治



江戸芳野の  
藝妓小うね

朝香楼芳春画









おれおれ  
 お房の上宿  
 近きも  
 お探の魂  
 ついでに  
 居ら  
 ねど  
 ついでに  
 近きも  
 必定夜が  
 必

おれおれ  
 お房の上宿  
 近きも  
 お探の魂  
 ついでに  
 居ら  
 ねど  
 ついでに  
 近きも  
 必定夜が  
 必



おれおれ  
 お房の上宿  
 近きも  
 お探の魂  
 ついでに  
 居ら  
 ねど  
 ついでに  
 近きも  
 必定夜が  
 必

おれおれ  
 お房の上宿  
 近きも  
 お探の魂  
 ついでに  
 居ら  
 ねど  
 ついでに  
 近きも  
 必定夜が  
 必

三遊記

四



つねに市を切

よそまじり

まじり

ひよこ子

細七

あらん

尚のまのび

居るうけゆる

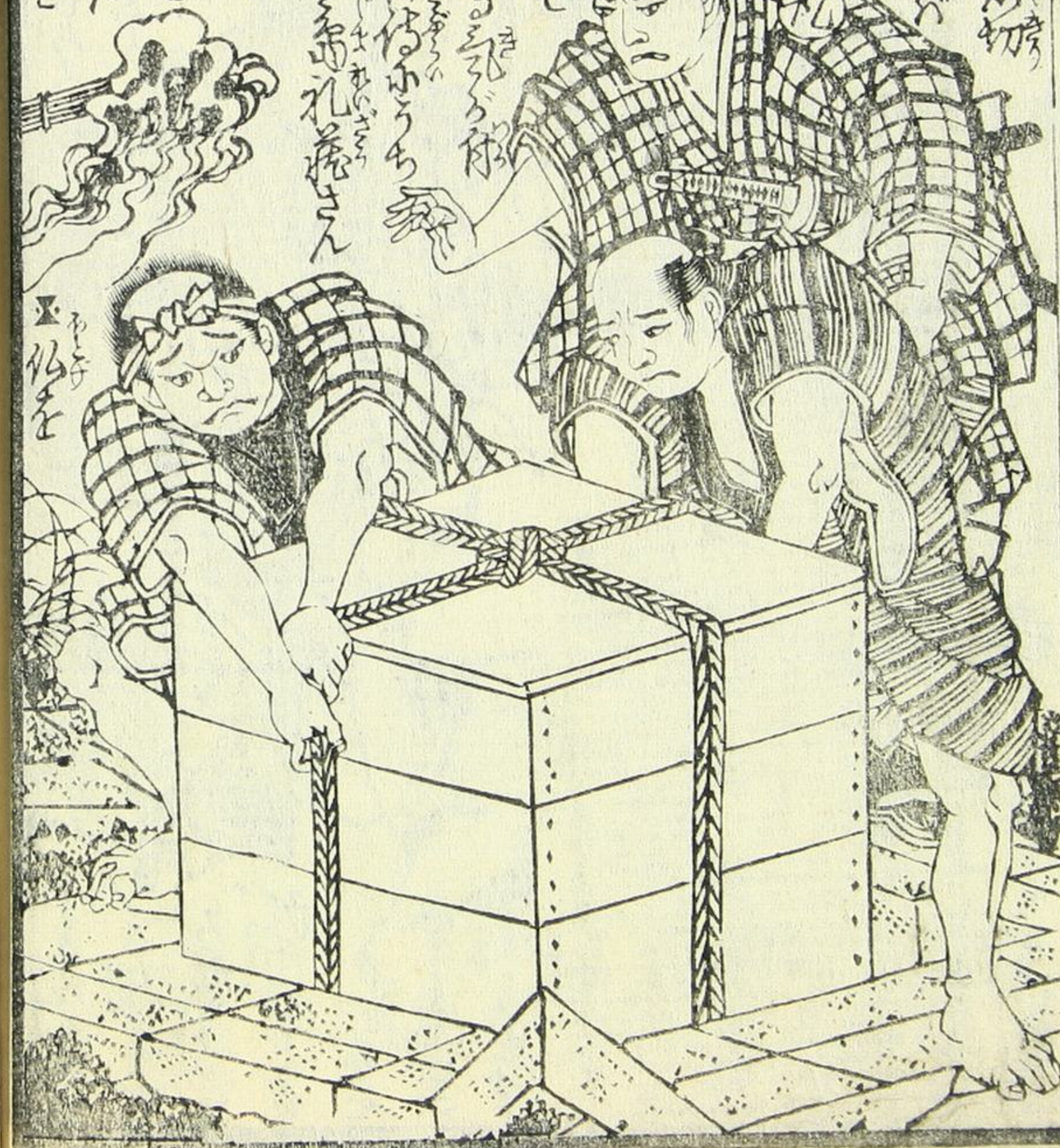
ねの中万のけふ

向ひ向ひ千のあ

うねを

ひまろ

由の別



おきく

まのこ

おのこ

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

三遊二上



あ

又

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

五

格子と赤丹  
下され  
快全  
目



















明治十二年五月

日柳届

出版人

山村金三郎

編集者

篠田久次郎

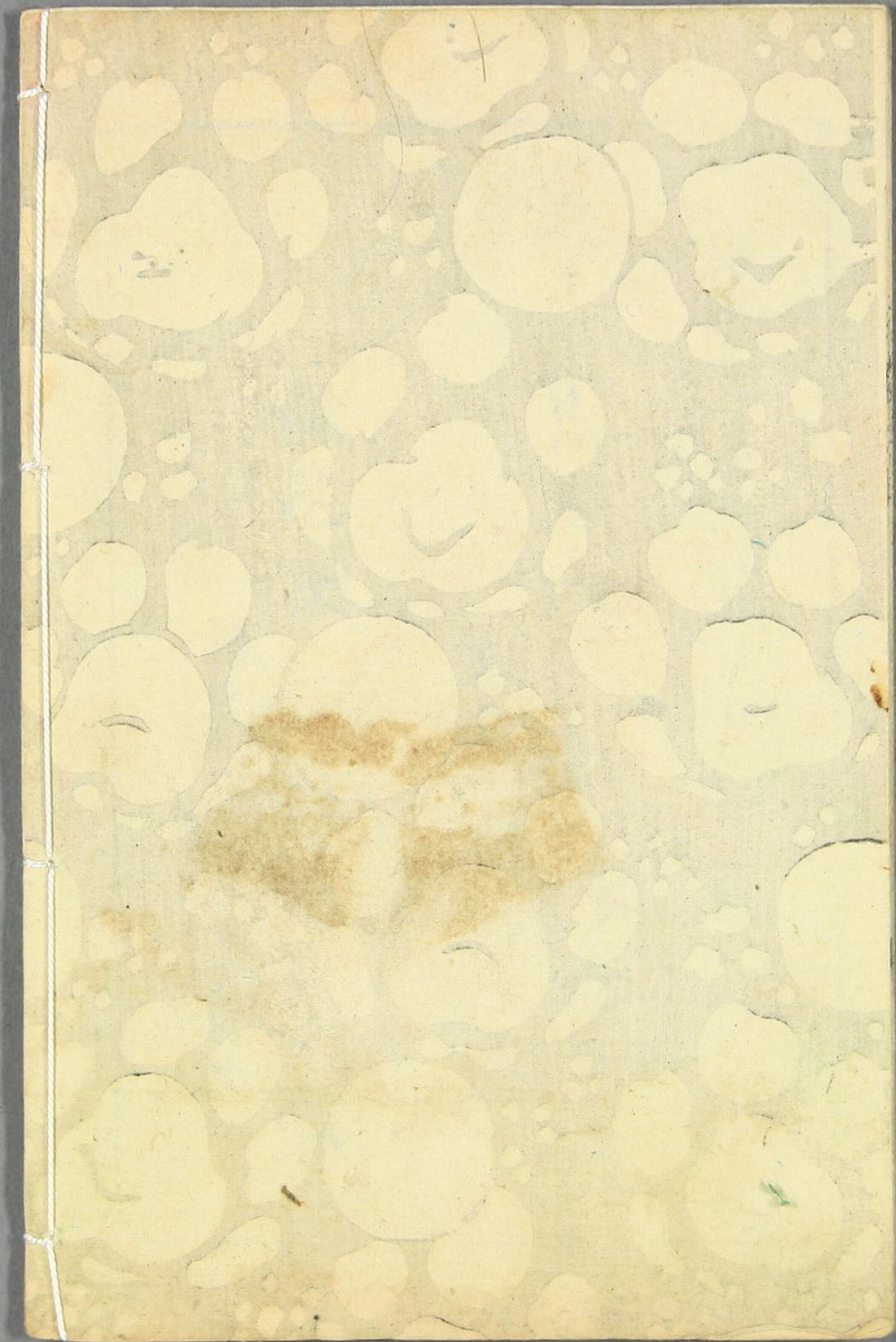
神田區仲町壹丁目六番地

浅草區吉野町六拾五番地

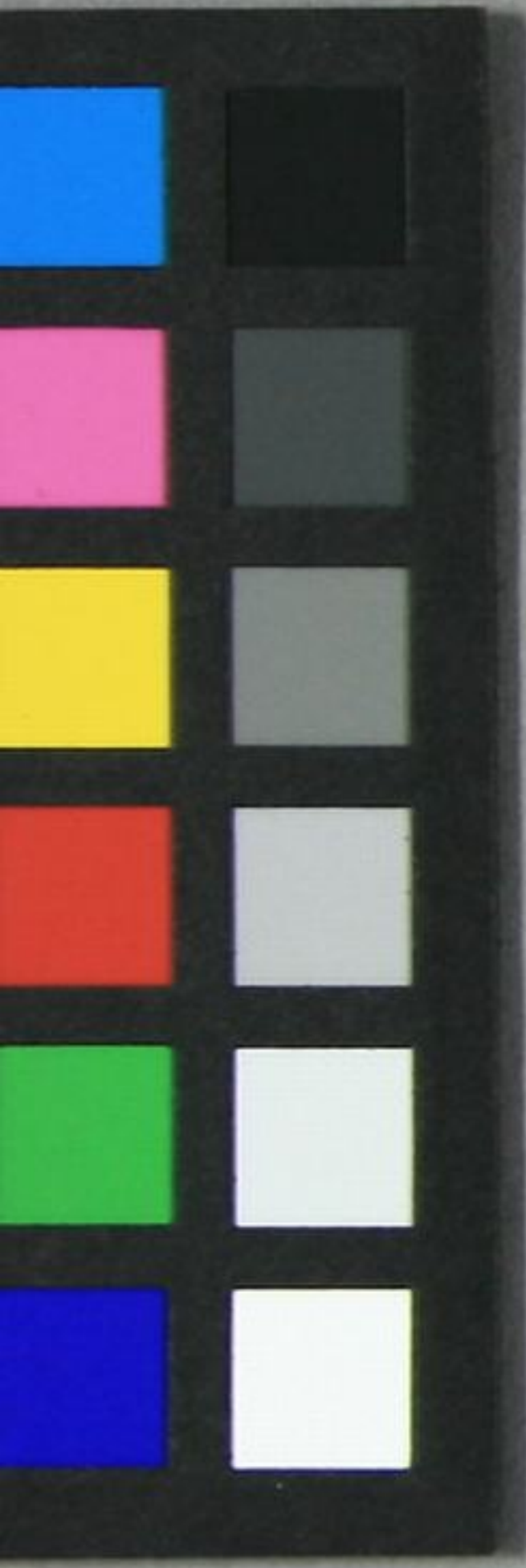
010190511800



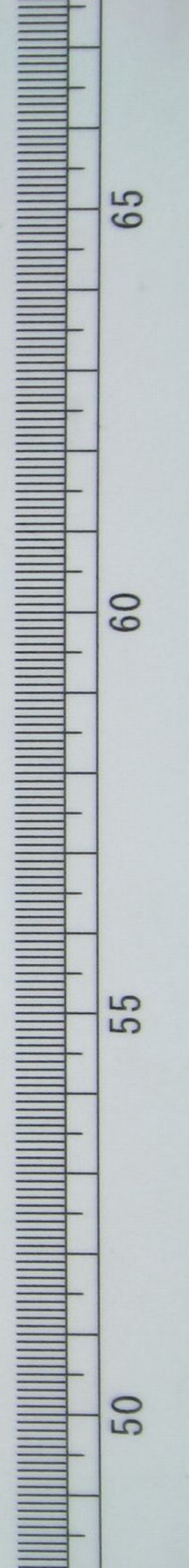








二編中



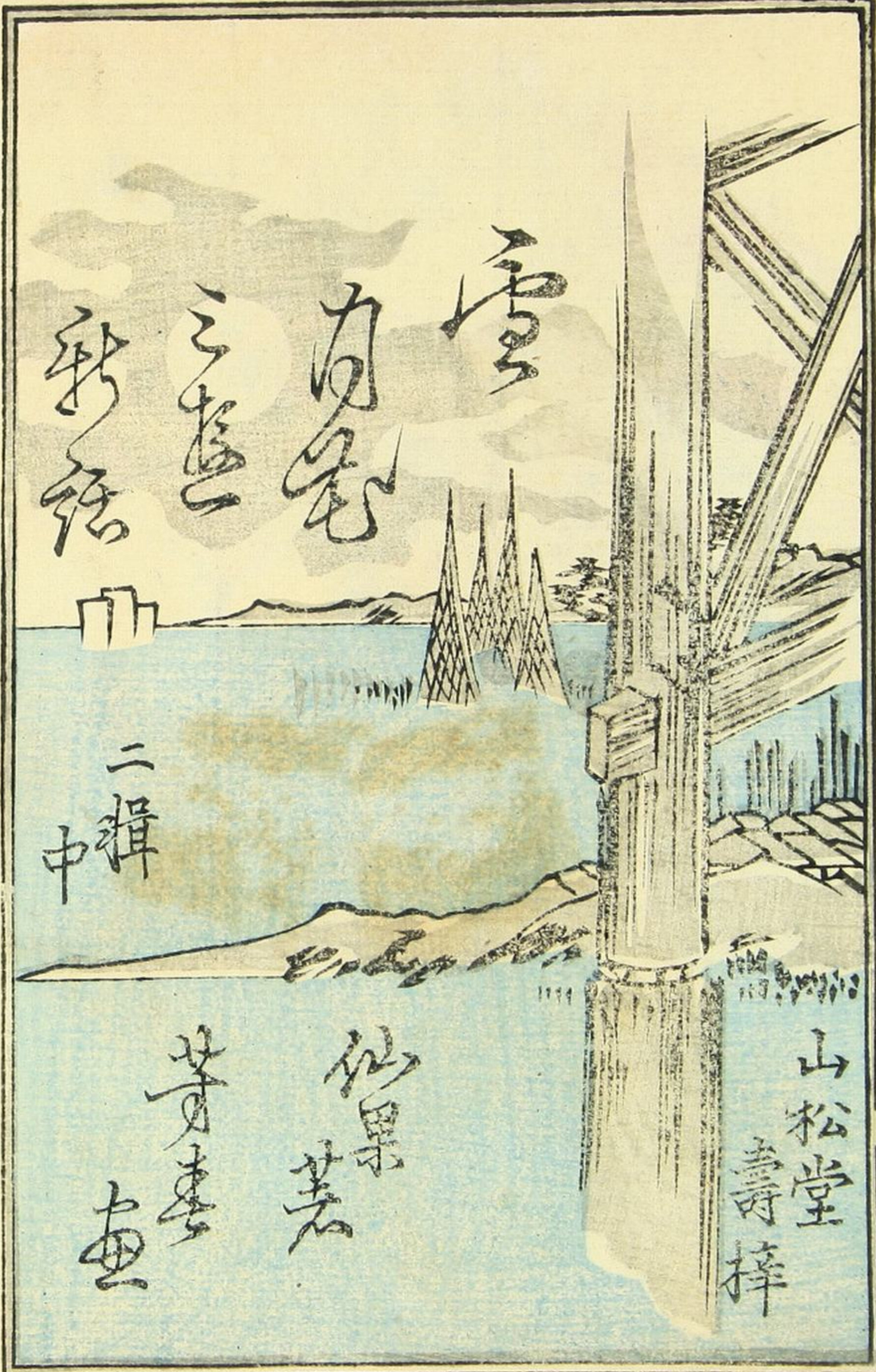
50

55

60

65





雪  
力  
の  
冠  
こ  
の  
冠  
新  
冠

二  
中  
輯

山松堂  
壽  
梓  
仙  
果  
若  
葉  
書  
畫



上の巻の他  
他の困苦  
と云ふこと  
は成りて  
はかみ  
ぬけ  
極み助くる  
山三つが  
縁よつあ  
らざる者  
傍のむすめ  
をみよの  
死骸と云  
ふより日  
ごころの  
義をわす  
れず  
倍よして  
悪人をも  
えあはれ  
国に害を  
除かん  
ものごと  
くはなす  
付ても  
海ねん  
と云ふ  
理なり

死骸も子細  
あつんと  
あつんと  
あつんと

山松堂  
壽  
梓  
仙  
果  
若  
葉  
書  
畫





























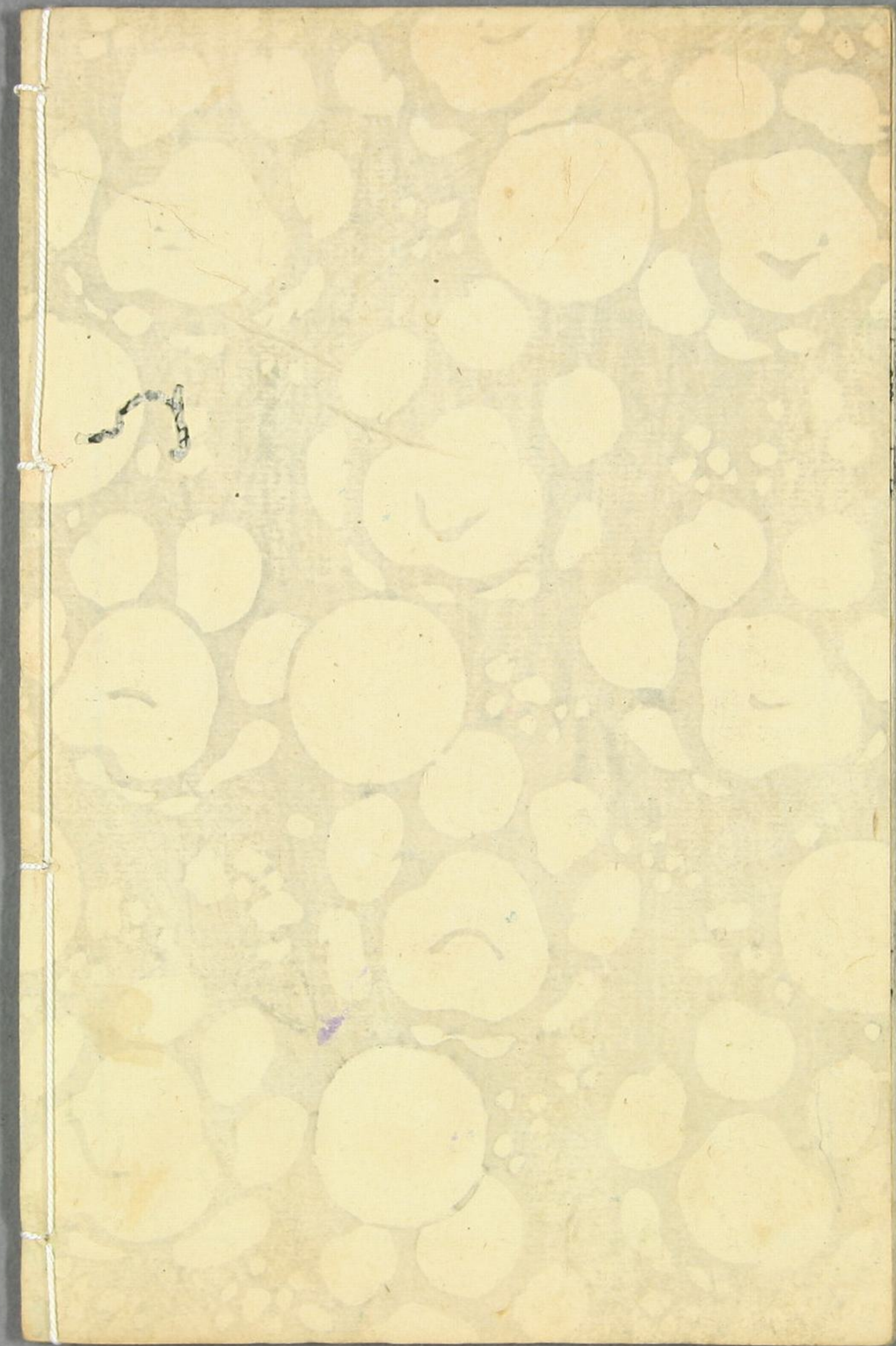




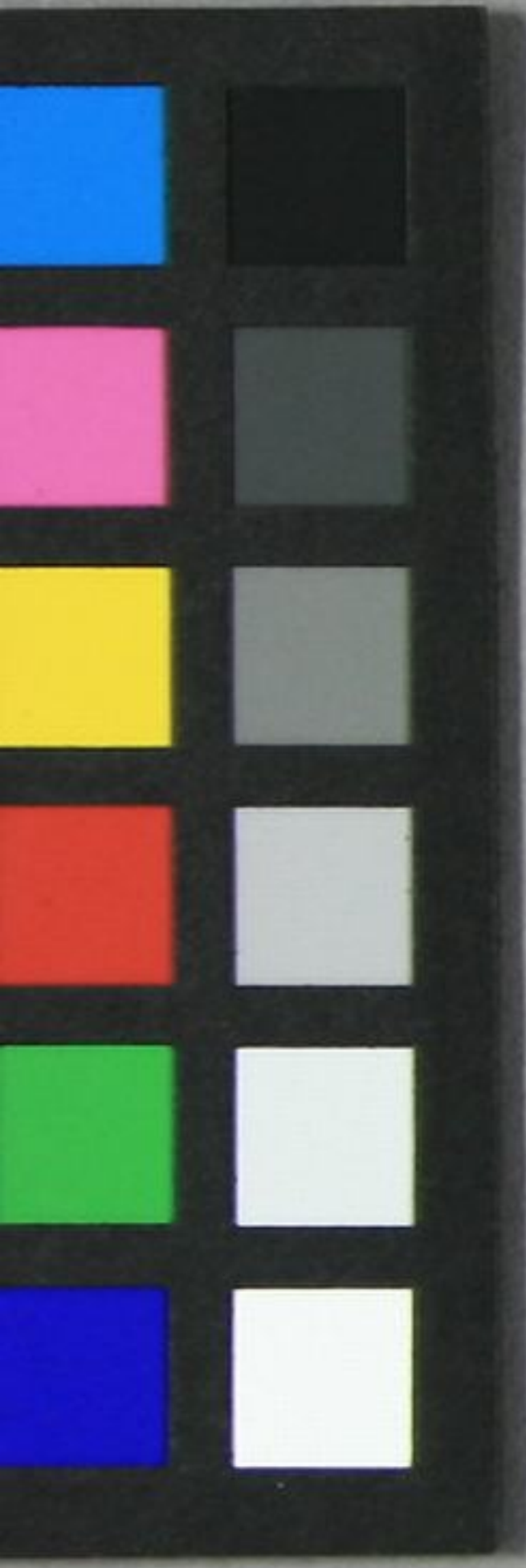








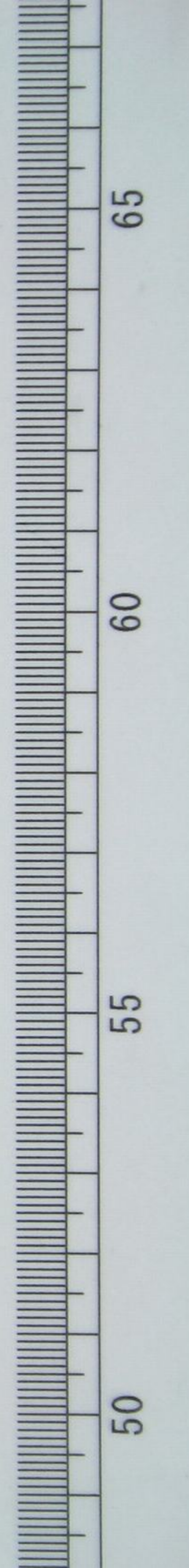




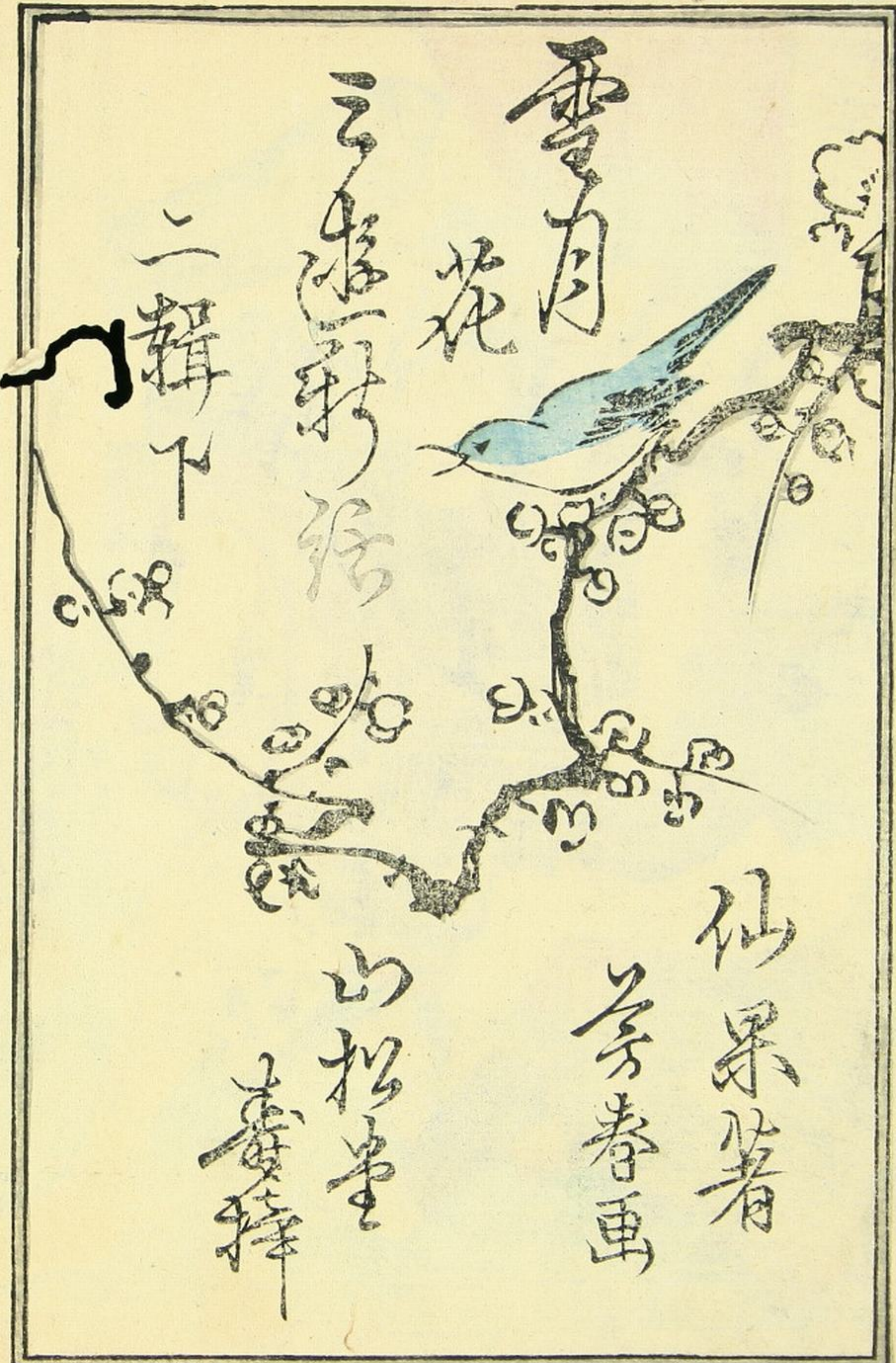
朝香樓芳春画

篠田仙果作

二編下















つまづ年のころ三十二三  
 りん白く人ぬれく家あ  
 大小あをわがり辺りも

流るる上  
 あられため  
 技師さま  
 よう  
 石井の  
 母さん  
 か  
 めの  
 さうり  
 ある  
 むど  
 半度  
 のん  
 らが  
 ちろ



か  
 けんを  
 初孫の  
 と  
 めの  
 くれが  
 かめ川  
 立派  
 恥  
 さ  
 ち  
 礼  
 あ  
 内

さ  
 母の  
 さ  
 桃子  
 海  
 あり  
 づ  
 あ  
 り  
 り  
 ひ  
 あ



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百



今日此知て信絶  
 のを速より母人  
 搬しつらうと止られ  
 ぬい何れもこの世に  
 仍らぬとされど世あんな  
 一世の夫とてこころいよ  
 中とあり約合ぬらあんと  
 中と拙者こそ世とあつら  
 はあんなん山とあつら  
 は中つらとたれをかく  
 洋達者の快全の天路  
 中よひを可しく石井の  
 さらもは中つらとたれ  
 中つらとて可しくや  
 今身が

















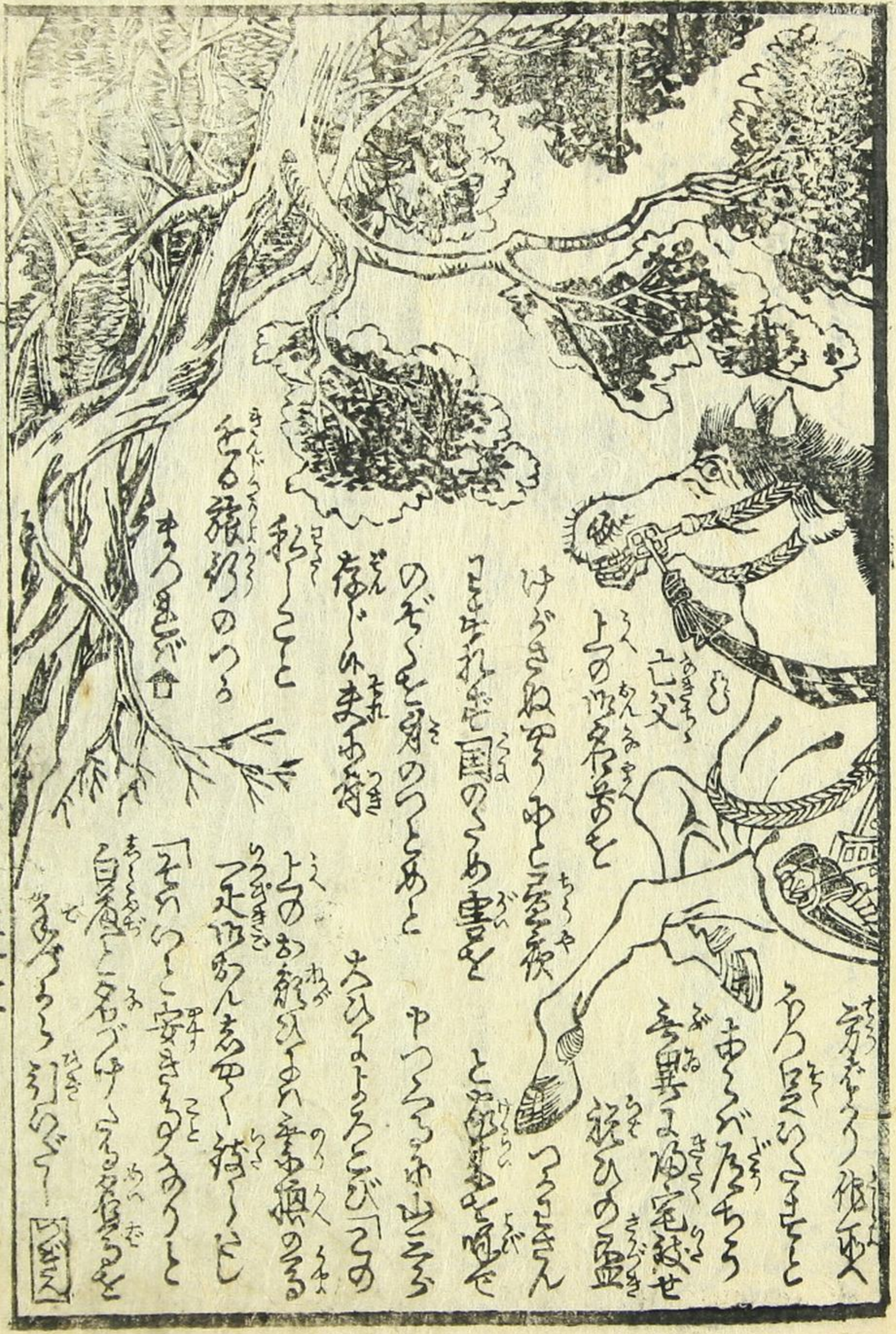






今更しきりさるるはなれぬと  
 申れど地味のさそひのさそひは  
 ざんじのさそひのさそひのさそひ  
 あんじのさそひのさそひのさそひ  
 今更しきりさるるはなれぬと  
 申れど地味のさそひのさそひは  
 ざんじのさそひのさそひのさそひ  
 あんじのさそひのさそひのさそひ

今更しきりさるるはなれぬと  
 申れど地味のさそひのさそひは  
 ざんじのさそひのさそひのさそひ  
 あんじのさそひのさそひのさそひ

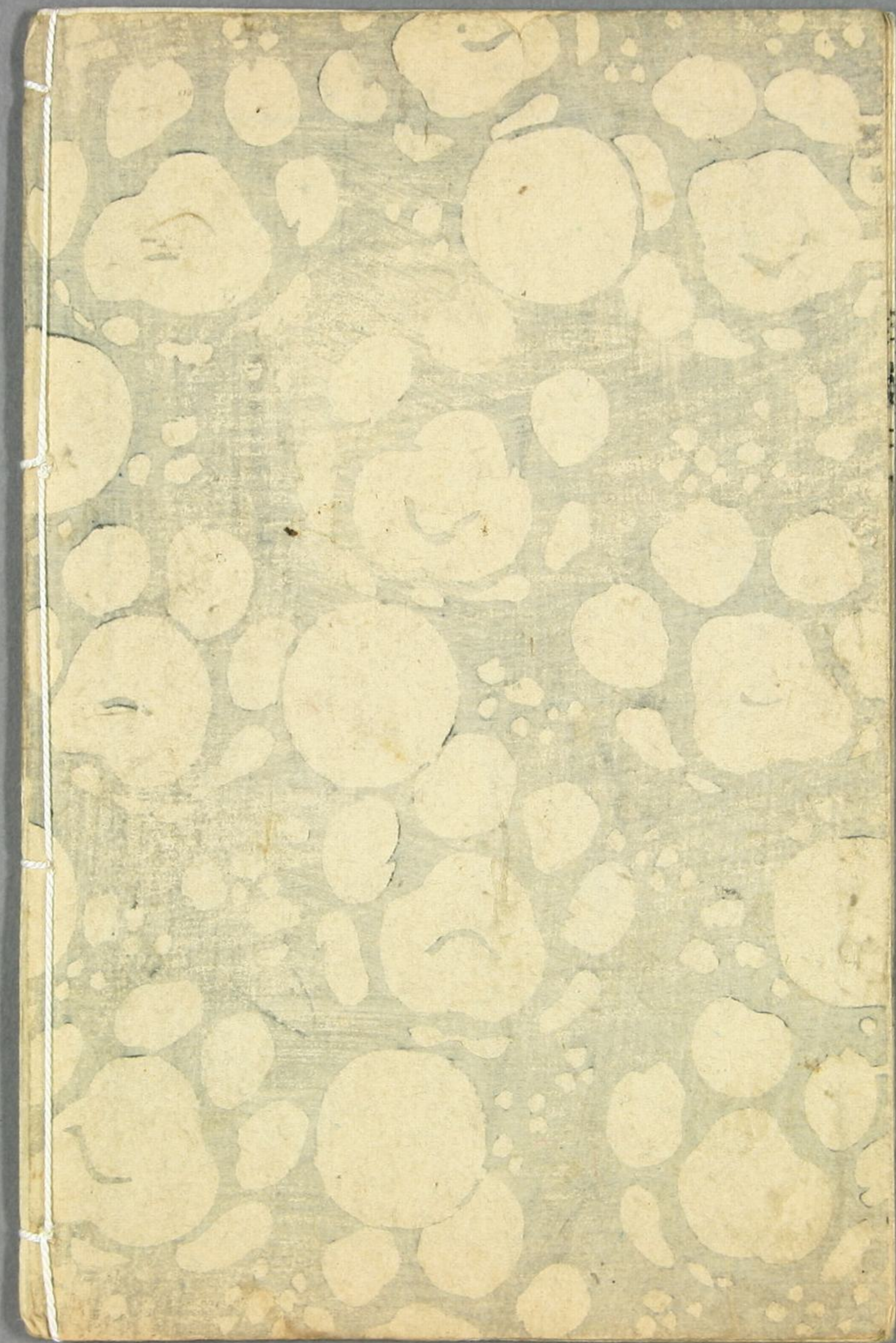


今更しきりさるるはなれぬと  
 申れど地味のさそひのさそひは  
 ざんじのさそひのさそひのさそひ  
 あんじのさそひのさそひのさそひ











山松堂壽梓  
佛國の小說  
田朝氏の妙案  
雪月花  
三揃新話  
弟戴輯  
作者篠田仙果  
画者生田芳春



65

60

55

50